

第4回 資料

大学院大学・至善館

枝廣淳子

1

プラスチック問題

海洋生物

海の中

ペットボトルの水、塩

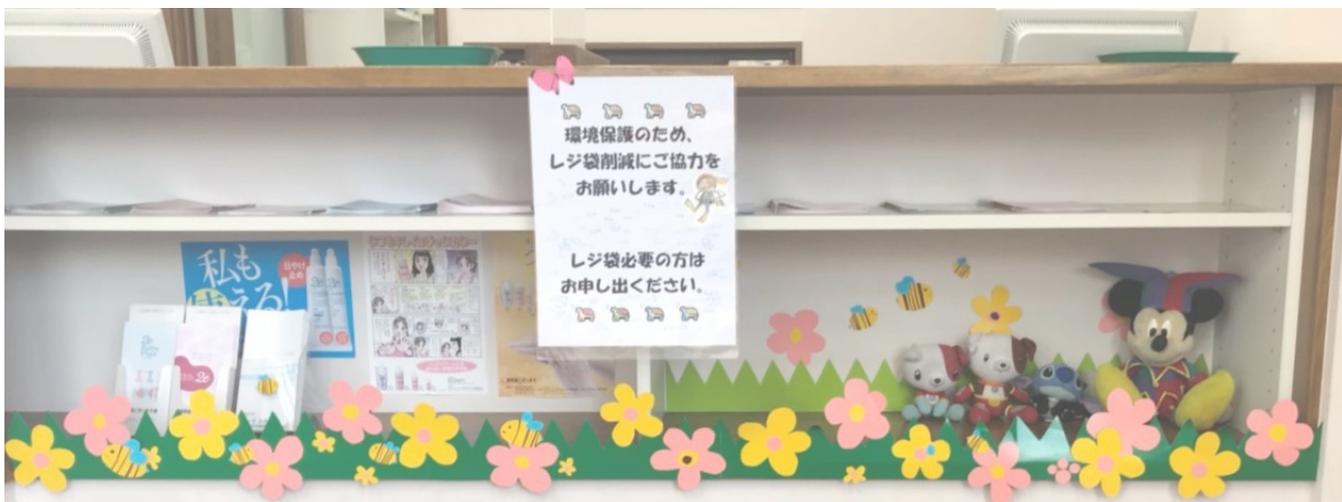
人体（人間の排泄物）

- ストロー
- レジ袋
- 包装容器以外のプラ
- 衣類(人工繊維)
- タイヤ
- 人工芝
- 漁具

.....

あらゆる人・組織の取り組みが必要

2



取り組み事例 (ナッジの効果)

すばる調剤薬局



2012年開業
売上：約1.7億円
社員：10人
住所：茨城県守谷市
最寄駅：
つくばエクスプレス守谷駅

レジ袋削減活動の開始

きっかけ

- 知り合いから海洋プラスチックの話聞いたこと

始める前

- ニュースや新聞、HPでプラスチックの問題を調べた
- クジラやカメ、海鳥がプラスチックを間違えて食べて死亡した写真はかなりショッキングだった
- 魚がプラスチックを体内に摂取することから**将来的に人間にも被害が出る**と感じた
- 海洋プラスチックは**日本からも大量に流出している**ことを知る
- スーパーなどではレジ袋の削減はよく見るが、**薬局や病院などの医療業界は取り組んでいない??**
- 自分たちでも何かするべきと感じ、レジ袋（ビニール袋）削減活動を始めた

レジ袋削減活動

以前

- これまでは紙の袋に薬を入れてからレジ袋に入れていた
- 守谷に開局した2012年から2018年7月までに使用したレジ袋は総数141,424枚

活動

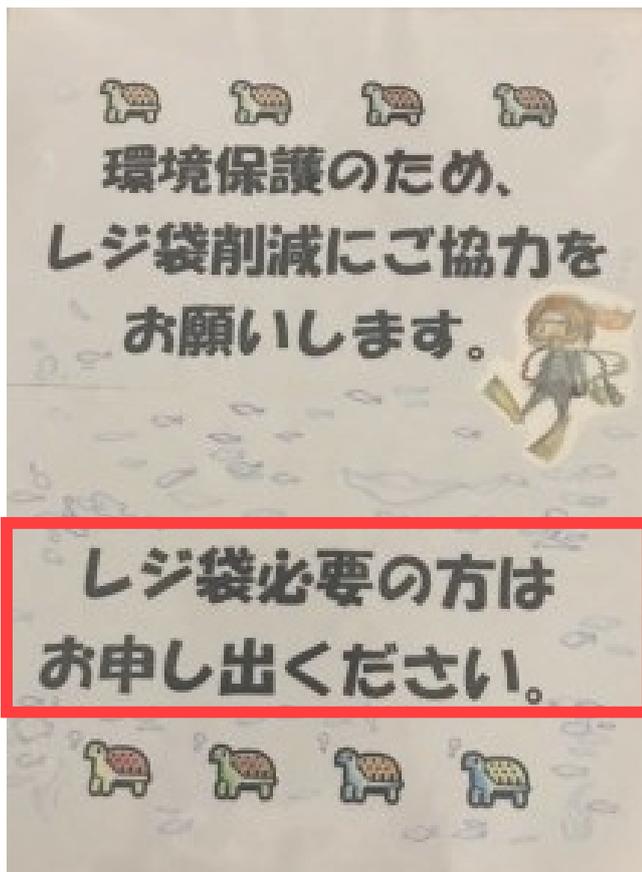
- HPでレジ袋を2020年までに半減することを宣言!!
(数値は社員で話し合って決めた)
- 活動内容：患者さんへの「声かけ」と「ポスター」
- レジ袋削減で浮いたコストは寄付することに

初期ポスター



協力してくれる人はチラホラ

ポスターを改善



- 文言を「レジ袋が必要ない方」から「レジ袋が必要な方」に変更
- 以前より、ずっと多くの方が協力してくれるようになった
- 少しづつ浸透してきていると実感

成果

9/28 ~ 10/23時点で
82% (1261枚)削減

82%の削減率で計算すると

年間21547枚のレジ袋が削減できる
CO2に換算すると
1.29t-CO2の削減

現在の状況

- 声かけは患者さんの薬の量と鞆を持っているか、または天気で判断
- 必要な人にはレジ袋を渡している
- 要らないという人がだんだん増えてきている
- クレームは1件もない
- 絶対減らす!! という断固たる気持ちはない
- レジ袋を削減しても大して経費削減効果はないが、少しでもお役に立てたらという気持ちでやっている
- 自分たちの生活でレジ袋を貰わなくなった
- 世界に与える影響は大きくないことは承知しているが、それはやらない理由にはならない
- より良い社会の実現のため、私たちに出来る努力をしたい